



5月号

令和3年4月26日

横浜市立 星川 小学校

校長 羽山 悟

TEL.332-2101 FAX.331-5052

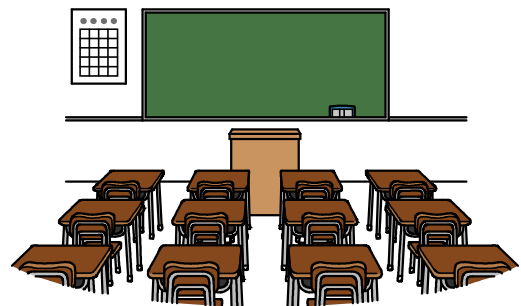
WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



『啐啄同時（そったくどうじ）』

校長 羽山 悟

新しい年度が始まって約1か月がたち、それぞれの児童が、新しいクラスや学年、学校生活や給食等にも慣れてきました。1年生もずいぶん小学生らしくなってきました。学校内には元気な子どもたちの声があふれています。4月はじめての朝会では、「元気よく、あいさつをしよう」ということについてお話をしました。これまでも本校の子どもたちは、あいさつがしっかりできると聞いていました。学校内だけでなく学校の外でも、とても元気よくあいさつをしてくれる児童が多く、とても嬉しく感じています。



また先日、全校で1年生を迎える会を行い、1年生への温かい励ましや、ほのぼのとしたレクリエーションなどを通して、お互いの気持ちもほぐれ、仲間意識が育まれたことと思います。さらに、5、6年生は委員会活動もスタートしました。それぞれの子どもたちが活躍する場面がたくさん用意し、達成感がもてるよう、知恵をしぼって進めていきたいと思っています。

私自身が心がけている言葉を一つ紹介させていただきます。啐啄同時という言葉です。啐啄同時の「そつ」は「啐（さい）」の慣用音。雛（ひな）がかえろうとするとき、雛が卵の内側からつつく音を「啐（さい）」、母鳥が卵の外からつつくの音を「啄」といいます。雛は自分で殻を突き破ってかえるものだと思っていましたが、雛が生まれる準備できたのを内側から知らせ、それを聞いた親鳥が絶妙のタイミングで外側から殻を突き割るということを表現した言葉ということです。その雛は、雛と親鳥の双方のかけがえのない行動で卵の殻が破れ、新しい大切な命が誕生するのです。

我々、子どもたちを見守っている大人は、とかく子どもが自分でやろうしていることを待ちきれず、つい手助けしてしまうことがあります。しかしながら、それでは自主性やコミュニケーション能力を伸ばすことにはつながりません。それぞれの子どもたちは大きく伸びる力を持っています。私たち大人は、あきらめず見守り、これぞというタイミングで声かけや手助け、支援をすることが大切だと思います。



保護者、地域の皆様におかれましても、新型コロナウイルス感染症防止対策に日々苦慮していることかと思っております。本校としても、この状況下でできることを見出して努力してまいります。本校のために、引き続きご理解ご協力よろしくお願いたします。